

参院選 自民圧勝

自民党圧勝で終わった第23回参院選。茨城新聞の22日付論説は「謙虚で慎重な政権運営を」という見出しで、アベノミクス効果の地方波及、消費税、

社会保障制度改革、TPP、憲法改正、外交と課題を挙げ、「衆院とは一線を画した判断や議論を期待したい」と提言した。では茨城新聞は選挙期間中、何を報じたのだろうか。7月5日の

「考えよう」（9日付）、「農業 農地集約、手腕が鍵に」（10日付）、「アベノミクス 中小企業へどう波及」（11日付）、「原

立望む」（13日付）などを争点として報じた。今、何が問題・争点なのかを伝える（議題設定）はマスメディアの大きな役割といわれる。それには二つの側面がある。一つはプロフェッショナルであるジャーナリストが重要な議題について自らの取材と判断によって報

戦略乗らぬ主観必要

公示日は「ねじれ解消 再稼働論議置き去り」（12日付）、「子育て支援 母親、仕事両

道するという機能と、もう一つ、受け手である読者・視聴者は、マスメディアが繰り返して

ネットワーキング・サーブス」という情報発信で支持率を伸ばした。政治家が計算し尽くしたメディア戦略を採った時、メディアはそれを報じるだけに陥ってしまう。筆者は長くテレビの報道に携わり、05年、09年の選挙では現場にいただけに、じくじたる思いがある。

公示日は「ねじれ解消 再稼働論議置き去り」（12日付）、「子育て支援 母親、仕事両

報じることを重要だと信じてしまうという、受け手に与える効果である。だからこそ、伝え手であるメディアの責任は重い。

公正中立と「あったことをあつたままに」報じる客観主義はジャーナリズムの原則とされ、多くの読者、視聴者が思う以上に現場で守られている。それが民主主義を育てると、長い間考えられてきたからだ。だが、それだけでは乗せられる。

茨城大学教授 村上 信夫



むらかみ・のぶお 茨城大学人文学部教授、放送作家。専門はメディア論、メディアリテラシー論、リスク

論。立教大学大学院修士課程修了。同博士課程中退。放送作家として報道、ドキュメンタリー、ドラマ、バラエティなど幅広いジャンルを手掛け、2012年4月、茨城大学に着任。著書「企業不祥事がとまらない理由」ほか。水戸市在住。

だが、過去に何度か苦しい出がある。2005年の衆院選では、当時首相の小泉純

「私の郷土紙批評」は、社外有識者による茨城新聞の7月分から12月分まで、月の前半を茨城大学で、後半を茨城大学で、部教授で放送作家の村上信夫さん、後半をつくば市教育委員の加藤美加さんが担当し

今回、安倍晋三首相はインタビュ出演とSNS（ソーシャル・

アには必要ではないか。そうしなければ多数派の意見に潜む危険性を指摘する者は誰もいなくなる。主観を鍛えに鍛えて鍛え抜き、凛として主観を報じる必要はないか。そう考

優しい顔したファシズム、そんな時代の足音が聞こえる現在だからこそである。